



# ラーチャブルック ร่ำพญานกข

※「ラーチャブルック」はタイを代表する花、ゴールデンシャワーをタイ語で表現したものです。

## 校長 谷口幸一郎

### 二学期、ありがとうございました

コロナによる制限が徐々に緩和される中で、できる範囲で教育活動を元の形+αになるよう展開してきました。校内の活動では小中連携したペットボトル回収をはじめ小学部の異年齢集団での遊び、上学年が下学年をリードする音楽朝会などの活動を楽しんでいます。

このように学校では様々な教育活動が**コロナ禍前に戻りつつある状況**です。その中で、修学旅行中の子供たちの様子を少し述べさせていただきます。

バスが学校を出てすぐに、学級レク係が活動を始めました。クイズをしたり、ランキング調べや「〇〇さんがあるところで△△をした」といったバス旅行ならではの活動をしたり、1時間半以上、クラスメートを楽しませるためにレクを行ってくれました。そしてレクとレクの間に修学旅行のテーマ音楽を練習するといった活動を行っていました。(この音楽は夜の全体レクレーションで6年生が全体で歌って楽しむためのものです。)さらに、帰りのバスでは学年レク係が先生たちと協力して作った約2時間のビデオを流し、渋滞で2時間遅れになった仲間の疲れを癒してくれました。修学旅行の場面、場面に応じて、**それぞれの子供たちが自分に与えられた役割を果たしている姿**を随所に見ることができました。本格的な修学旅行は3



年ぶりでしたが、ブランクを感じさせない新しいアイデアを取り入れた教育活動でした。

本校は世界でも一番の児童生徒数の多い学校です。オンラインではそのことがなかなか実感できなかったのですが、実際に子供たちが**一堂に介して、その雰囲気味わうことができたのは、2学期の一番の成果**だと思っています。

いよいよ3学期には保護者の方々に学校に来ていただき、その雰囲気を生で感じていただけるよう計画しています。とりあえずは、授業参観と学級懇談会を対面で開催します。是非、**学校に来ていただき、学級の様子を見てください。**

### 危機意識

学校が様々な活動をするときに**一番気を付けていることが子供の安全管理**です。中休みや昼休みは教務と教頭は必ず、外へ出て子供たちの活動の様子を見ています。危ない遊びをしていないか、外へ出ていく子供はいないか、時間が来たら全員が教室へ向かっているかなどをチェックしています。また、校外行事で一番気を遣うことは、子供がトイレに行く時です。必ず、男女共に担当の教員が子供の出入りをチェックします。(例：子供を大きなごみ袋に入れて誘拐する。遊園地などでは子供にマスクをかぶらせて誘拐するなどの事件が他国では起こっています。)タイは比較的安全な国だと思われがちですが、やはり外国です。その意識を常にもつようになっています。



私事ではありますが、つい先日のこと、夕方にエ

カマイのお寺の辺りを歩いていた時、大きな音がしました。最初は車のマフラーからの音かと思い、音の出所を探そうと振り返った瞬間、ノーヘル、ノーマスクのバイクの二人がこちらに向かって大きな声で叫んでいました。私は「何事だろう」と思い、一瞬ボーッとしていましたが、周りのタイ人はすぐに体をかがめ、物陰に隠れようとしていました。タイ人はすぐに銃声だと気付いたのです。それを見て私も慌ててその場から逃げました。

**自らの危機意識の低さを改めて思い知らされました。**タイに来た時は外国で暮らすことから常に気を張っていたにも関わらず、タイに住み始めて2年余り、危機意識が低くなっていることを反省させられました。「ひょっとしたら流れ弾が当たったかもしれない」と考えると、怖くなります。

ウィズコロナの生活になり、多くの人が街に繰り出すようになってきました。白昼堂々とスリをしたり、人をだましてお金を取ったりするなどの事件も発生しています。大使館からも「5人の日本人が捕まった。日本人だからと言って安心しないように」などの注意喚起がなされています。

もう一度、「**自分の命は自分で守る**」意識をもっていきたいものです。

### 人間関係をよくするには？

文科省によると、子供たちが培わなければならない力の一つにコミュニケーション能力があります。以前は子供が地域で遊ぶ際は、必ず自分より年上や年下がいて、その中で言葉に気を遣いながら自分のポジションを確立していくことが自然に要求されていたと思います。しかしながら、現代社会では自由な時間があっても、外へ出る機会が少なくなり、ゲームをしたりテレビを見たりするなど、家で遊ぶことが多くなってきています。また、友達の家に行っても、友達と遊ぶのではなく、ゲームをするために友達の家に行っていることが多くなっているような気がします。そのため、どうしても人と人との間合いの取り方、つまりコミュニケーションの取り方が分からない子供が増えていると、文科省は指摘しています。

以前にも紹介したかもしれませんが、新聞記事の一部を紹介します。

- ① 「ありがとう」と「ごめんなさい」は必ず言う。
- ② 笑顔で明るくあいさつする。
- ③ 了解した約束は守る。実行できない約束はしない。
- ④ 嘘を言わない。ごまかさない。
- ⑤ 自分がされて嫌なことはしない。
- ⑥ 相手の立場に立って考え対応する。
- ⑦ 本人のいないところで悪口やうわさ話をしない。

(日本経済新聞より)

当たり前ようですが、これが意外とできない。本校の子供たちにも同じことが言えます。「**人の家に行った時には、あいさつをする**」「**人**



**にもものもらったら、そのことを親に伝える**」など基本的な社会生活の在り方を各家庭でも教え導いてあげてください。さらに学校では、「人間関係づくり」とか「ソーシャルスキル」といった技法を授業に取り入れながら、子どもたちに指導しています。**家庭、学校が一体となって、子供にコミュニケーション能力を付けていくことが必要です。**

### 受験生「頑張れ」

終業式が終わると、中3はいよいよ受験に向けて日本へ帰国する生徒がほとんどです。志望校合格を目指して日々勉強に励んでいると思います。

初めて、入試という試練に立ち向かっている子も多いと思います。



一方で、**中学や高校入試は自分の夢への第一歩であり、これがゴールではありません。**万が一不合格になってもこれで人生が決まるわけではありません。人の進む道はいくつもあって、決して一本道ではありません。今できる限りの努力をしてみる。そのことが大切だと思います。「**焦らず、悔らず、諦めず**」自分のベストを尽くしてください。

**「受験生の皆さん、入試に臨む前に、健康には十分気を付けてください。」**